

平成 23(2011)年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日:2012年3月15日

氏名:天野 Faith 冬樹

所属団体:特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

受入先機関名(所在国):Me To We (カナダ)

研修期間(全体): 2012年2月13日 ~ 2012年3月9日

研修テーマ:日本の子どもの心のケアにつながるワークショップ・プログラム構築

全体研修目標:911 後、中東系の子どもへのいじめや学校や地域内で差別が起こり人種間不和が生じた際、それを解決するためカナダの Me to We が開発した心のケア・プログラムである「Embracing Cultures Program」を受講し、東北の震災の影響で生徒間不和などが生まれている日本の地域や学校の子どものケア・プログラムの開発、そして実施に役立てる。また、昨年1月に起きたハイチでの大震災後に、Free The Children が行い始めた子ども支援プログラムを受講し、ハイチの子どもへのケアの手法を学び、日本の震災被災児童の支援プログラムに役立てる。その上で、ハイチの地震で被災した子どもと、日本の地震で被災した子どもが相互につながるプログラムを開発し、地震や津波で被害を受け苦しむ子どもは自分たちだけではない、そして、世界には貧困や児童労働などにより権利が奪われている子どももいるという思いと共に、将来的に日本国内だけでなく、国際問題にも目を向けられるよう子どもの意識を育てるプログラム開発に役立てる。

具体的な研修内容:

1. カナダの Me to We による、911 後にいじめや差別を受けた中東系の子どもなどを対象とした、心のケアのための「Embracing Cultures Program」の受講。
(2月13日 24日の2週間)
2. Me To We の姉妹団体の Free The Children(NPO)による、ハイチでのチャイルド・ケア・プログラムも含まれている「Adopt A Village」の受講。
(2月27日 3月9日の2週間)

研修の成果:

911 後以外にも、最近ではカナダにおいていじめが大きな問題となっており、心のケアや、いじめをしてしまう子どもの対応方法などについてのプログラムが開発されており、日本での原発からの避難者対象におきているいじめや、その他差別解消のワークショップ・プログラム開発に活かせる内容であった。また、研修計画当初はハイチへ実際に視察に行く予定であったが、現地の復興がままならず、現地スタッフの対応が厳しいことがわかり訪問が実施できなかったのが残念である。しかし、カナダにおいて、途上国から離れた先進国で行う事が出来る支援などをより深く学ぶことができたので、日本での活動へ適応出来る事が分かった。

同様の理由で、ハイチの子どもと日本の子どもが繋がるプログラムはとても難しい事が分かり、実施する事は今の時点では不可能である。

また、プログラムを実施するための資金が必要であり、資金の調達方法が今後の課題である。

本研修成果の当団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法:

東北の子どもたちの心のケアをするプログラムを提供する事によって、当団体のメンバーと学校や教員、そして被災地域の生徒たちが繋がることで、心のケアを行い、被災児童に向けた緩やかなリーダーシップ・トレーニングを行う事により、子どもたちがエンパワメントされ、自分が住む地域社会が抱える問題や、国際問題にも目を向けて課題に自ら取り組めるようにできるような子ども活動家が育成されていくようなサポートをしていく。そのためには、まずはワークショップやトレーニングなど子どもへのサポートを行う事の出来るファシリテーターを育成し、その後、ワークショップの運営を通し、子どもへのより深いエンパワメントを行う。結果、教育委員会や学校とつながり、ワークショップの受け入れがされるよう働きかけ、ワークショップなどを行う事により、国内や海外での色々な社会問題などに目を向け、アクションを起こす子どもが増え、日本のNGOに興味を持ち、自ら子どもの問題は子ども自身が声を上げ社会をかえていく行動を起こす子どもの増加を目指す。

本プログラムや事務局側に対する提案、要望等:

前回の研修後、研修で学んだことを全国に伝えていくために、フォローアッププログラムに申請し、そのための必要な交通費をご支援いただき、述べ1500人以上の子どもや若者に直接伝えることができ、子どもたちがその後行動を起こすなどし、活動の輪が広がり、成果を上げることができました。今回も、研修で学んだ内容をもとに新しいワークショップを開発し、そのワークショップの実施を行う地域まで交通費の補助などのご支援があるととても嬉しいです。ぜひ、またフォローアッププログラムがあれば申請したいと思いますので、そういった機会を作って頂きたくここに提案させていただきます。

その他:

(総合的に研修成果を理解するために、写真類、スタディ員が受入先機関に提出した報告書類等があれば、あわせて添付願います)

以上